

令和 5 年度 東京都立八丈高等学校 全日制課程 学校経営報告

東京都立八丈高等学校長

佐藤 俊一

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動への取組と自己評価

	取組	成果と今後に向けて
学習指導	<p>目標：グランドデザインに基づいた教育課程の充実と魅力ある教育活動、進路 希望のより高いレベルでの実現を目指した授業の充実化</p> <p>ア 将来のデジタル教科書や校務・採点支援システム化による IT 化、AI や ICT の活用を推進する。</p> <p>イ 教員の資質・能力の更なる向上のため、個人の研鑽をはじめ、オンラインでの指導教諭の模範授業、教員研修など、意図的、計画的、組織的な研修を推進する。</p> <p>ウ 文科省地域協働事業推進校の経験を活かし高大連携や地域と協働した探究学習を推進して地域課題解決に挑戦する創造的な「八丈島を支える人材」を育成する。地域協働学習実施支援員を教務部へ分掌し推進する。</p> <p>エ 島内の小・中学校との教科間及び学校間連携で町教委主催教育研究会の各部会に参加するなどして情報の共有化及び指導と評価の内容や方法の改善を図るとともに、各教科の小中高の系統的な学習を推進する。</p> <p>オ 全教育活動を通じてオリンピック・パラリンピック教育を推進し国際交流など八高のレガシーを構築する。</p> <p>カ 「視野の広い国際社会で活躍する人材」を育成する。</p>	<p>ア C4th、Office365 (Teams や Forms 等) や採点支援システム (リアテナント) 等都立高校で採用されているソフトを日常的に活用して教育活動を実施。また、AI 教材 Qureous 他、録画した授業のオンライン上での共有化や ICT 機材を積極的に活用して授業を展開した。</p> <p>イ 定期的に職員研修会を実施し、起案等の校務に関することから、生成 AI に関することまで、教員に必須の研修から最新情報の共有まで組織的に実施した。</p> <p>ウ 文科省地域協働事業推進校として培ってきたものをベースとして、地域協働学習実施支援員と連携し、より実用的かつ持続可能なものへと「八丈学」をリニューアルした。</p> <p>エ 小中との交流会、教務主任会や生活指導部会、小中若手教員の研究授業へ可能な限り参加。また、小中高と連携しての系統的学習実践に向けた取組みを進めた。</p> <p>オカ 本年度 6 月に姉妹校である米国ハワイ州のワイアケア高校から生徒を迎え入れての学校における交流活動やホームステイを実施。また、本校の柱の 1 つであるハワイ研修 (台風により中止) やオンライン交流に加えて、留学に向けたオンライン説明会の実施、JET 2 人配置、オンライン英会話の実施、英検受験推進等、グローバル人材育成のための環境を整備した。</p>
園芸科・家政科の充実	<p>目標：園芸科、家政科の魅力の充実化と情報発信</p> <p>ア 大学や企業と連携し、「将来の高度な園芸・家政の専門人材」や「起業家・創業家を育成」する。</p> <p>イ 消費者教育・主権者教育 を充実させ市民性を育む。</p>	<p>ア 客員講師を招いての授業を実施。また、1 年次に大学や企業と連携しての上級学校訪問や企業訪問を実施し、2 年次におけるインターンシップを通じて働くことの意義や起業家・創業家マインドを養った。</p> <p>イ 外部人材・外部団体と連携し、公民や家庭科において、実践的授業を実施した。</p>

	<p>ウ JGAP 認証のもと SDGs を推進し地域貢献する。</p>	<p>ウ JGAP 認証のもと、安全かつ質の高い農作物を栽培、またそれらを基に加工品を作成して地域に向けた配布や夏祭り・産業祭等の町の行事において販売を実施し、多くの島民から好評を得た。</p>
<p>生活指導 ・健康づくり</p>	<p>目標：生徒の健全育成と心身の健康、体力の向上の推進</p> <p>ア 国際交流リーディング校、海外修学旅行の実施を目指すとともに、英検上位級の取得を推進する。</p> <p>イ 「Hawaii 研修」「次世代リーダー育成道場」「専門高校生徒海外派遣研修」への参加を推進する。</p> <p>ウ 地域と連携した学校危機管理計画等の充実化を図る。</p> <p>エ 生徒の保健衛生、安全管理等の取組と事故防止を行い心身の健康の増進と体力の向上を図り健全育成する。</p>	<p>ア ハワイ州ワイアケア高校やハワイ大学ヒロ校との交流活動を通じて国際理解教育を推進。また、JET やオンライン英会話、AI 教材の活用等、英語教育をこれまで以上に強化し、G-NETS における英語プレゼンや英検準 1 級合格者の輩出など、成果を出した。</p> <p>イ 教員からの従来型の紙による周知だけでなく、Teams や Classi 等、オンラインも活用して生徒・保護者に向けた周知を徹底した。</p> <p>ウ 町の消防と連携して防災宿泊訓練を実施、コロナ禍を反映させる形で学校危機管理計画の見直しを行った。今後も町や警察、小中と連携ができるようにしていく。</p> <p>エ セーフティ教室等、生徒全体に向けた指導に加えて、「コンディションレポート」の活用や SC、YSW と連携して、援助が必要な生徒に対して個別最適な対応を行った。昨今の状況を踏まえて、SNS に関する研修等 SNS に関連したトラブルを未然に防ぐための取り組みを進めていく。</p>
<p>進路指導</p>	<p>目標：進路実績の向上</p> <p>ア 生徒の進路希望の高いレベルでの実現のため、3年間の系統的なキャリア教育の全体計画に基づいた進路学習と在り方生き方の涵養を学校全体で行い「社会的・職業的に自立した人材」を育成する。</p> <p>イ 都の予備校講師によるオンライン学習を要請する。</p> <p>ウ 一般入試での進学対策など、学力の向上と進路指導の改善・充実化を図る。</p>	<p>ア これまでの進路指導を見直して、3年後を見据えた1年生からの Classi を活用したポートフォリオの作成を開始。また、2学年へのガイダンス時期の変更やオンラインチューターの1、2年生段階での活用、一般受検予定者向けの自習教室の確保等、生徒が早期に進路選択を意識するような工夫を施した</p> <p>イ 都教委の島しょ担当部署へ予備校授業の視聴や英語外部試験の援助等、サポートが必要な内容について予算要求をし、来年度の英語や情報についての予算を確保した。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となり、各教科と連携しての長期休業期間中の補習、講習、講座の充実化を図るとともに、オンラインやオンデマンド講座も加えることで、更に充実化させた。</p>

<p>特別活動等</p>	<p>目標：特別活動等の充実化</p> <p>ア 外部指導員を活用した部活動の年間活動計画を策定し、安全性を確保して活性化を図る。</p> <p>イ 生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、郷土理解、リーダー性を高める。</p> <p>ウ グローバル化、ボーダーレス化への対応として、国際交流を更に推進し TOKYO GLOBAL GATEWAY TGG 等を活用した 4 技能 5 領域など使える英語力を育成する。</p>	<p>ア 外部指導員と顧問が連携することにより、教員負担を軽減し、また、効率的に生徒の知識・技能の伸長を図れるとともに、部活動を活発化させることができた。</p> <p>イ 制服標準服化の検討等、生徒自身が学校行事等の企画・運営を進めるだけでなく、堀川高校への先進校訪問や中学生との交流を通じた経験から学びを得るなど、成長へとつなげた。先進校訪問後、生徒、保護者、教員へ還元研修を行って、発表の場を設け知見の共有を図った。</p> <p>ウ 6月のワイアケア高校来校との国際交流活動をはじめとして、12月のハワイ大学とのオンライン交流等、交流活動を進めると同時に、1年生の移動教室時の TGG 体験やオンライン英会話の活用、授業での 2名の JET の活用等、4 技能をバランスよく育成し、実用的な英語力を身に付けさせた。</p>
<p>家庭・地域との連携 協力・交流活動、学校 広報活動</p>	<p>目標：都や町と連携した戦略的な情報発信</p> <p>ア 学校広報活動を経営の第一課題と位置付け推進する。</p> <p>イ 都や町等と連携し本校の更なる魅力化に努め情報発信し、八丈島への移住・定住、八高生及び海外からの八丈島訪問生徒のホームステイ先の確保、寮建設、その他の方法などを検討、推進して応募者倍率を向上させるとともに、地域貢献、国際交流・相互交流する。</p>	<p>ア 「広報はちじょう」や「支庁の風」などの広報誌へ学校の情報を掲載するとともに、Xでの配信を中心に、ホームページ等、オンラインを活用して広報活動に努めた。</p> <p>イ 都や町の関係部所、また本校の保護者や本校OB等、本校の協力者とも連携して、八丈島への移住・定住、ホームステイ先の確保、寮建設に向けて活動を進めた。</p>
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>目標：学校経営の適正化</p> <p>ア 教職の魅力・やりがいを発信し、誰もが八高に勤務したくなるような学校づくりをする。</p> <p>イ ライフ・ワーク・バランス重視の勤務環境を構築する。</p> <p>ウ 本校組織全体の更なる活性化を図り、経営企画室の経営企画機能を高め学校経営参画を推進し教育系と行政系の職員が密に連携した学校運営や施設管理を行う。</p>	<p>ア 町役場と連携しての生徒の活動の発信、Xを活用して生徒の日々の活動を積極的に発信して、学校の魅力をアピールした。</p> <p>イ 安全衛生委員会・職員研修連絡会での意見交換から教員の意識の向上と業務の見直しをして改善を図った。教員の意識の高まりにより、業務の効率化が図られ、12月の労働時間が4月と比較して、80時間越え7人が0人となり、45時間越えも27人から6人へと大幅に減少した。</p> <p>ウ 三主任を中心とした四者会議による情報共有をはじめとして、Teams等による組織内での情報共有、また、サービス事故防止研修等の共同での実施など、組織的に連携を進めた</p>

(2) 重点目標達成率と次年度以降の課題と対応策

◇ 学習指導

- 授業の満足度（肯定的評価）数値目標 令和5年度目標 80%

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
80%	80.1%	86%	91.5%
(本年度の目標) それぞれの教員が2回程度授業動画を撮影し、お互いに共有する。			

◇ 生活指導

- 生徒遅刻 数値目標 令和5年度目標 遅刻15回以上の生徒 5%以下

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
3.4%	2.3%	10%	0.58%
(本年度の目標) コロナ禍以前の通常モードでの生活習慣の定着を目指す。			

- 部活動加入率 数値目標 令和5年度目標 85%

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
77%	80%	80%	75%
(本年度の目標) 外部指導員等を活用して、魅力化の向上を図る。			

◇ 進路指導

- 卒業時の進路決定率 数値目標 令和5年度目標 100%

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
98%	91%	96%	98%
(本年度の目標) オンラインチューター制度やYSWとの連携により進路相談の機会を充実させる。			

◇ その他の教育活動における 数値目標

- 中途退学者（進路変更者） 令和5年度目標 0名

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
3名	1名	2名	0名
(本年度の目標) SCやYSW、町の子供家庭支援センター等を活用して保護者との連携体制の強化を図る。			

- 図書の貸し出し冊数 令和5年度目標 1人10冊以上

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
6.0冊	4.0冊	7.0冊	10.1冊
(本年度の目標) 「1か月一冊本を読もう」の取り組みを継続し、一人あたり10冊以上の読書を目指す。			

- 授業公開等の保護者及び地域住民の参加者数 令和5年度目標 100名以上

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
152名	88名	143名	1048名
(本年度の目標) 島内の諸行事との日程調整を行い、来場しやすい環境づくりについて更なる改善を図る。			